

高崎市立高崎経済大学附属高等学校 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

評価対象	羅針盤		方 策	点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート		
I 特色ある学校づくりの努めていますか。	1 大学、企業等の外部との連携により、充実した教育活動をしよと努めていますか。	① 外部機関との連携により充実した教育活動をしていると感じる生徒が90%以上である。	・文系オナープログラムでは、高崎経済大学・群馬県立女子大学・県内外の企業・経営支援NPOクラブと、理系オナープログラムでは、群馬大学・前橋工科大学・足利大学・その他研究機関と連携する。1. 2学年では、全体を対象にしたコラボリレー講話等で様々な外部機関と連携する。それらの取組を生徒や保護者に周知する。	A	A	「学校は外部機関と連携を図っている」と回答した生徒が、昨年度は89.1%であったが、今年度は第1回が93.9%、第2回が93.6%、平均で93.8%と、昨年より上昇した。具体的数値目標である90%以上を達成することができたので、評価をAとした。これは、オナープログラムと連携していることや、各学年で行うコラボリレー講話で高崎経済大学や経営支援NPOクラブと連携していることが、生徒や保護者に周知された結果と考えられる。また、総合的な探究の時間では高崎北高校と合同の成果発表会を行ったり、新たな取組を行ったことや、本校Webページで多くの活動について発信したことも良い影響を与えたとと思われる。引き続き様々な外部機関と連携を図ってきたい。	オナー活動は課外活動も多く生徒にとって大変な面もあるが、それに取り組むことで成長に繋がる。中学生にとってもオナークラスに入りたいと思えるように広く周知しアピールしてほしい。また、オナープログラム等で外部機関と連携しているが、今後社会に出て生きていく高校生のために、金融経済教育推進機構と連携するなどして、金融経済教育をもっと充実させていくとよいのではないかと。
	2 国際交流の機会をつくり、国際理解に努めていますか。	② 対面国際交流会、米国研修、台湾研修などの実施において、国際理解の場があると感じる生徒が90%以上である。	・米国研修、台湾研修の内容の充実を図る。地理歴史、公民、外国語科等と連携し、異なる文化や言語に対する理解の充実を図る。国内にあっては生徒にとって充実した交流が行えるように海外の高校生の本校への訪問を計画・実施する。	A	A	「学校は国際交流の機会を作り国際理解の推進に努めている」と回答した生徒が、昨年度は92.2%、今年度は第1回が93.0%、第2回が95.1%、平均で94.1%と昨年度より上昇し、具体的数値目標の90%以上を達成した上で、評価をAとした。今年度は学校間の対面交流を3回(9月に台湾、11月に香港、12月に台湾)実施し、それぞれ25名、15名、32名が参加した。また、昨年度から実施している台湾研修には、昨年より6名少ない16名が参加した。米国研修は、今年は11名が参加予定であるが、昨年の28名に比べるとかなり人数が減った。物産高騰や円安により渡航費用が高騰していることが大きな原因と考えられるが、そういったことも含め、来年度以降も同じ形で海外研修を実施するかについては現在検討中である。来年度も生徒のニーズを考えながら引き続き国際理解の場を確保したい。	海外とのオンライン交流なども含め、より多くの生徒が国際交流できる機会があるといいと思う。また、昨今の物産高騰などに伴い海外研修の費用が高くなっている負担については、高崎市や本校の同窓会などに支援を依頼して負担の軽減を図ってみてはどうか。同窓会としても学校から提案があるようなら一緒に検討していきたい。
	3 キャリア教育の充実を努めていますか。	③ 社会に出て役立つ能力・態度が身に付いたと感じている生徒が80%以上である。	・各学年で生徒の伸ばしたい力を明確にし、3年間の見通しを持った進路行事を開催し、行事後には必ずアンケートを実施し、生徒自身が振り返る機会を設ける。	B	A	「学校はキャリア教育の充実を努めている」と回答した生徒は、第1回が91.5%、「はい」36.0%、「ややはい」55.5%、第2回が93.3%、「はい」41.5%、「ややはい」51.8%であったこと、また、希望者対象の進路行事等への参加者が多数いることから、「キャリア教育の充実」は達成できていると考える。しかし、保護者の結果は第1回が91.2%、第2回が85.1%と減少したことから、活動における生徒の様子を保護者に周知する場を増やすなどの手立てを考えていく必要がある。	大学見学バスツアーや進路講演会などの各種進路行事のほか、文系オナークラスの企業訪問等、TSUBASAプロジェクトの探究的な活動も積極的に進めている。これからも様々な企画を継続的に進めてほしい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 工夫して分かりやすい授業を行っていますか。	④ 授業での説明が明解で分かりやすいと感じる生徒が85%以上である。	・年2回実施する授業アンケートや予備校研修、授業参観、各教科主体の授業研究会等を活用し、授業改善に努める。	A	A	アンケートで肯定的な回答をした生徒は、第1回が89.5%、第2回が90.4%であった。予備校研修に加えて、今年度は各教科内での研究授業及び授業研究会を実施した。これらの取り組みを、発展的に継続させることで今後も授業改善に努めていく。また、分かりやすさだけではなく、生徒に深い思考を促すことなど、授業の質的改善にも努めていく。	高校の授業も教師主導の一方向のものから、だいぶ変わってきていると感じる。先生方の工夫が、多くの生徒の肯定的な回答につながっている。アンケートで「いいえ」と回答している生徒にも、先生方の工夫が伝わるように。
	5 発表する場面で、表現力の育成に努めていますか。	⑤ 授業や学校行事等で発表する場面での表現力が向上したと感じている生徒が85%以上である。	・授業や学校行事等で、生徒が発表する場面やICTを活用した発表の場を多く取り入れることで、生徒の表現力の育成に努める。	B	B	アンケートにおいて、「発表する場面での表現力が向上した」と肯定的な回答をした生徒は、第1回が83.0%、第2回が86.1%であった。授業や学校行事における発表場面は多く設定されており、発表をする経験を通して自らの表現力が向上したと感じている生徒が多いものと推測される。今後は、発表をする機会を設定だけではなく、効果的な発表方法等についての指導を充実させることで、生徒の表現力向上を図ってきたい。	ICTの活用や、生徒と教師、生徒同士の対話的な活動が増えている。総合的な探究の時間では、1年間での発表会や他校との交流発表会などを通して、生徒一人一人の表現力やプレゼンテーション力の向上が図られている。
	6 生徒の主体的な学びを引き出す授業を行っていますか。	⑥ 話し合いや、探究的な活動を取り入れ、生徒を積極的に授業に参加させるように工夫されていると感じる生徒が90%以上である。	・「主体的に学習に取り組む態度」の評価につながる学習活動の実践に努める。また、年2回授業参観期間を設定し、他の教員の取り組みを授業改善の参考にすると、生徒に過度な負担がかからないよう課題の量を教科間で調整する。	A	A	「学校は主体的・探究的な学習を取り入れている」と回答した生徒は、第1回が96.7%、第2回が97.2%であった。教科の授業で、ペアワークやグループワークがほぼ全ての授業で取り入れられていることが、生徒の積極的な授業参加や主体的な学習に繋がっているものと考えられる。また、総合的な探究の時間については、大学・地域の企業・NPO・他校等と連携・協力し、毎年内容の改善を図っている。教員間で授業を参観し合い、他の教員の取り組みを授業改善の参考にすると、生徒の主体的な学びを引き出す授業の実現に繋がることができている。	生徒が自ら課題やテーマを設定しており、高校生らしい中身の濃い活動ができていて感じている。生徒の興味・関心を高め、主体的な学びを促す工夫を引き続き行うとともに、大学や企業、NPO、同窓会組織等と連携し、質の高い授業を継続して進めてほしい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 規則正しい生活習慣を身に付けてさせていますか。	⑦ 遅刻をする生徒が学年平均で1日あたり3人以下である。	・担任等による面談を実施し、日々の生活に目的意識を持たせることと、必要に応じて家庭と連携した個別指導を行い、健康面を含む自己管理能力を高められるよう支援する。	C	C	12月末時点において、今年度の1日あたり遅刻者数は、1学年12人、2学年20人、3学年64人であった。遅刻が多い生徒に対しては、二者面談や家庭への連絡、学年指導等を行い、生徒の生活習慣の改善を促している。必要に応じて、スクールカウンセラーや医療機関に繋ぐなどの対応をしている。年間の遅刻者数の推移を見ると、学期が進むにつれてその数が増加する傾向がある。疾病や体調不良による遅刻のほか、生活習慣の乱れや学校生活に対する不安等が原因となる生徒もいることから、保健、生徒指導、教育相談など様々な観点から生徒に対応する必要がある。	薬物乱用や生成AIを使用した迷惑行為等が生徒の生活圏に入ってくるなど、生徒を取り巻く環境が大きく変化してきている。指導の在り方についても検討し、生徒が自分の身を危険にさらすことのないように指導してほしい。また、様々な地域からの生徒が多いことが本校の特徴であるため、苦慮する場面もあるかと思うが、粘り強く指導してほしい。
	8 交通規則を遵守し、交通事故を起こさないようにさせていますか。	⑧ 重大な交通事故を未然に防ぐ。保護者、警察署等と連携した交通安全運動を年3回以上実施し、ヘルメット着用率100%を目指す。	・校門指導、街頭交通指導、交通安全教室、生徒自身による交通安全運動等の実施。自転車検時に「ヘルメットの正しい着用」を確認し、安全意識の向上を図る。	B	B	アンケートによると、肯定的な回答をした生徒は第1回が95.0%、第2回が95.5%、保護者は第1回が93.9%、第2回が92.9%であった。12月末日時点での本校の事故報告は13件であり、昨年度と比較して減少傾向にある。しかしながら、外部の方から生徒の交通マナー等について連絡をいただくことも多く、事故には至っていないものの、危険な場面は多く存在していることが想像できる。今後も保護者と連携したマナーアップ運動、生徒下校時のヘルメット着用の指導、市役所、警察等の機関と連携したヘルメットの呼びかけ事業等を通して、交通安全の意識を生徒に持たせたい。	ヘルメット着用については、登校時は良くなっている反面、下校時や学校から離れた地域での状況については改善の余地がある。先生方も大変かと思うが、そのことについては継続的に指導してほしい。また自転車乗車時の交通反則通告制度(青切符)の導入については、生徒と保護者に適切に周知してほしい。
	9 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨ いじめ発生件数0を目指した教育活動に取り組み、「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と考えている生徒が90%以上である。	・職員研修の実施、生徒情報の共有化、教育相談アンケート、個別面談及び生徒自身によるいじめ防止活動等、いじめ防止のための各種プログラムを実施する。	C	C	学校はいじめ防止や早期発見に向けた取り組みが積極的に進んでいるか、という問いに対して、生徒は第1回では88.5%、第2回では87.8%が肯定的な回答をしている。担任や学年職員の日常的な観察や二者面談がいじめ防止や早期発見に寄与している。さらに生徒が自身の悩みなどを打ち明けやすい環境を作るために、例えば、担任以外の職員と面談できる週間を設けるなど、もう工夫が必要と考える。芸術コースの生徒によるいじめ防止のポスター作成や生徒会役員のごもいじめ防止会議への参加等も生徒や保護者へ周知し、学校がいじめに対する姿勢を積極的に示すことも必要であると考えられる。	アンケート結果を見ると、生徒の回答と保護者の回答には差が見られる。このことから、家庭での親子の会話が少ないことが想像される。SNS等を使用しないいじめが多い現代社会において、大切なことは生徒が大人に相談できる環境である。生徒が学校に対して気軽に相談できるように更に環境を整備して進めてほしい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 生徒の進路意識の高揚に努めていますか。	⑩ 大学見学や職業人講話、進路講演会等の進路行事に積極的に参加したと自己評価できる生徒が90%以上である。	・大学見学会や合格体験発表会、進路講演会などの行事を通して生徒の進路意識を喚起し、学期に1回の進路希望調査や二者面談を通してきめ細かい進路指導を実現する。FWプロジェクトを各学年で展開し、学校全体でより高みを目指す進路意識を醸成する。	C	C	「大学見学や社会人による講話、進路講演会等の進路行事に積極的に参加した」と回答した生徒は、第1回が78.7%、「はい」31.7%、「ややはい」46.0%、第2回が83.1%、「はい」41.1%、「ややはい」42.0%であり、目標とした数値を下回った。特に1学期中にある進路行事を見直すことで結果を向上させるようにしたい。また、保護者からの評価は大きく上昇した。オープンキャンパスバスツアーの実施形態を変更し、生徒と保護者を同時開催にしたことが理由であると考えられる。進路選択においては、生徒と保護者で温度差がないことが重要であると考え、生徒・保護者双方に対する進路行事を考えていきたい。	大学見学会が積極的に進められており、関心が高められている。このような取組はとても効果的なもので、ぜひ積極的に進めてほしい。また、本校の卒業生による進路講演会は、生徒にとってロールモデルとして身近に感じられる機会となると思うので、今後も積極的に卒業生の協力を仰いでいくのがよい。
	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪ 自分の希望する進路を実現させるために、毎日の授業や部活動、その他の活動に積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。	・平常補習や学習合宿の企画、自習室の開放など生徒が自ら進んで学習できるような環境を整える。進路講演会や学年集会を活用して、大学入試等の情報を生徒や保護者に伝え、生徒が努力する方向性を示す。	C	C	「自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいる」と回答した生徒は、第1回が85.3%、「はい」38.7%、「ややはい」46.6%、第2回が87.9%、「はい」44.8%、「ややはい」43.1%であり、目標とした数値を下回った。受験が近づくにつれて進路意識が向上するのは自然だが、大学受験が早期化している中で、さらに早い段階で進路を意識させる必要がある。進路講演会を時間を再考することで、早めの進路意識の向上・確立を目指していきたい。学習環境等は他の高校に比べて整備されていると思うので、積極的な生徒の参加を促したい。	自習室の開放や平常補習など、他校と比較しても学習環境が充実していると思う。生徒が進路に対して意識する環境は整っている。また、進路実現に向けては家庭での話し合いが重要である。生徒と保護者が同じ考えになれるように家庭で話ができるようになるといいと思う。「いいえ」と回答した生徒の原因・背景を追求し、今後につなげてほしい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 保護者や地域住民に向けて情報を積極的に発信していますか。	⑫ 保護者の85%以上が学校は積極的に情報を発信していると感じている。	・ClassiやWebページを活用し、より速く詳しい情報発信を行うとともに学校行事に地域住民を招待するなど本校について理解してもらう機会を作る。	B	B	積極的に情報を発信していると感じている保護者が、第1回で84.9%、第2回で83.4%、平均で84.6%と、数値目標の85%に近い値のため、総合評価をBとした。主な情報発信ツールはClassiだが、今後は本校のWebページの更なる充実と部活動顧問等による迅速な情報発信にも努めていく。また、今年度の文化発表会では多くの来場者があり盛況であった。来年度は経費削減が実施されるので、地域住民を招待するなどの取組を行ってきたい。	保護者に向けての情報発信はClassiを通して積極的に進んでいる。地域住民向けの情報発信には、もっとWebページを積極的に活用し、学校の様々な情報を載せることと、頻りに更新ができることとよい。ただし、誤った情報発信とならないよう注意しながら進めていく必要がある。
	13 授業公開、学校公開に努めていますか。	⑬ 本校保護者対象の授業公開や中学生対象の学校公開、学校説明会等で合計2,000人以上の参加を得る。芸術系コースの演奏会や展覧会、部活動を通じて学校の知名度を上げている。	・生徒が中心となって本校の魅力を発信できるように企画・運営を工夫する。また、案内を本校Webページに掲載し周知するとともに、Googleフォームを活用することで、申込の簡略化を図る。	A	A	「学校は授業公開、学校公開に努めている」と感じている保護者は、第1回で91.8%、第2回で87.2%であった。また、中学生対象の学校説明会及び学校公開の参加者は、のべ3,207名であった。今後も、授業公開やWebページでの情報発信を継続的に進めていきたい。また、新しい入学者選抜制度が始まり、志願者の動向が見えにくい中ではあるが、今後も、引き続き多くの中学生に本校の魅力を発信することで、本校の志願者を増やしていきたい。	保護者や中学生は、授業公開や学校説明会等で学校の様子を知ることができるが、地域住民が学校公開の機会が少ないと感じる。学校行事や授業の様子などを観てもらえる機会を作ること、学校と地域との信頼関係を築くことも大切なのではないか。
	14 保護者や地域住民から信頼される学校を目指していますか。	⑭ 地域住民や生徒の保護者の85%以上が、本校の教育活動を評価している。	・保護者会・教育振興会との連携を更に図り、保護者会や学校評議員会の提言を適宜検討し今後の活動に反映する。	A	A	「地域住民から信頼されるよう努力している」と回答した生徒は、第1回84.2%、第2回88.1%で、平均86.2%であった。同じ質問で保護者の結果は、第1回91.2%、第2回92.0%で、平均91.6%となり、数値目標の85%を超えたため、総合評価をAとした。引き続き高い信頼を維持できるように指導を継続していく。また、学校評議員会の提言を検討し、保護者会・教育振興会との連携をより深めていくことが重要である。	高経附は自由な校風の印象だが、生徒が自律している。自転車ヘルメットは全体としてよくかぶっていると思う。自転車ヘルメットの更なる向上や周辺地域の清掃活動などを通して好感度を上げることも必要ではないか。また、多くの地域の人に行事などを見てもらえるとよいと思う。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	15 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮ 生徒の90%以上が、学習内容の理解を深めるためにICTの活用が役に立ったと感じている。	・ICTに関する最新情報を周知する機会を設けるとともに、教職員相互の授業公開の機会を活用し、教職員間で効果的なICT活用方法の共有を図る。	A	A	「ICTを活用し、理解が深まるような授業が行われている」と回答した保護者は、第1回92.0%、第2回92.2%、生徒は、第1回92.3%、第2回94.6%であった。また、95%を超える職員が、「ICTを活用し、理解が深まるような授業を行っている」と回答している。今後もICTを活用することを目的とすることなく、あくまでも生徒の理解を深めるためのツールとして活用を工夫していくことが重要である。	ツールとしてのICT活用については、更に多様な活用方法や活動場面を設定できるようにしたい。教師・生徒全員が同一の端末(iPad)を使用していることは、県立高校と比較して大きな長所となっていることは間違いない。
	16 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑯ 保護者の90%以上が、学校からの通知の確認にICTが役立っていると感じている。	・教職員、保護者それぞれに伝達すべき内容が間違いなく伝わるよう、システムの運用を工夫する。	A	A	「学校からの通知の確認にICTが役立っている」と回答した保護者は、第1回95.1%、第2回94.4%であった。学校から保護者への連絡だけではなく、Classiの欠席連絡機能を活用することで、保護者から学校への連絡も可能となり、ICTを活用した業務改善に繋がっている。今後は、保護者押印の必要な提出物の電子化など、ICTを活用した更なる業務改善を図っていく。	Classiは双方向の連絡ができるため利便性が高い。Classiでの欠席連絡は、保護者や学校の業務削減に大きくつながっている。引き続きICTを活用した業務改善を進めてほしい。
※ 安心安全な学校づくり	17 防災対策を職員・生徒に徹底していますか。	⑰ 生徒、保護者の80%以上が防災対策、安全点検に努めていると感じている。	・避難訓練や防災教室、救命救命講習等を通して、防災の意識を高めると共に、日々の学校施設点検を丁寧に行うことで二次災害を未然に防止する。	B	B	高崎北消防署のご指導のもと、4月に生徒・教職員を対象とした避難訓練、7月には教職員を対象とした救命講習を開催し、実践力の養成及び防災意識の高揚に努めた。また、3月には日本赤十字社群馬支部に依頼し、防災セミナーを開催する予定であり、教職員・生徒の防災意識を更に高めていくことを考えている。次年度においても、継続して救命講習を開催すると、生徒・教職員の実践力の養成に努めていきたいと考えている。	有事に備えて日頃から教職員・生徒の危機管理意識を高めておく必要がある。目的的な安全管理や応急処置等について、定期的な訓練や講習会等の開催を通して、教職員や生徒の意識向上に努めてもらいたい。
	18 情報セキュリティの強化に努めていますか。	⑱ 職員の100%が、メール送信ミス、成績資料や個人情報資料の管理不備、コンピュータウィルス感染や不正アクセスなどによる事故を未然に防止する対策を実行している。	・情報管理マニュアルの徹底、ダブルチェック機能の有効化を推進すると同時に、ウィルス対策を徹底する。	A	-	個々の職員、各部署での管理やチェック体制を整えることにより、メール送信のミス、成績資料や個人情報資料の管理不備、コンピュータウィルス感染や不正アクセスなどによる事故は、全く無かった。今後も、引き続き情報セキュリティに対する意識を高め、体制を強化していくことが重要である。	更なるICT化が進む中、個人情報の管理等を強化することにも、生徒の情報リテラシーを高めてほしい。生成AIの一層の普及が予想されるため、生成AIの活用に対する教育も必要になってくる。